別紙様式２　（高）

令和５年度　県立波崎高等学校自己評価表

No.1

目指す学校像	・互いを思いやり、助け合える強いチーム（教職員組織）を目指す。 ・保護者、地域の期待に応え、生徒個々の自己実現に対応する学校を目指すとともに、地域を愛し、地域に貢献する人材（人財）を育成する。 ・学習活動や部活動、ＨＲ活動等の学校生活を通して、心身ともに健やかな社会人としての資質、素養を兼ね備えた人材（人財）を育成する。

前年度の成果と課題	重　点　項　目	重　点　目　標	達成状況
学習指導面 落ち着いた環境で朝学習や授業が実施され、各教室に導入された電子黒板やタブレット端末を活用した授業も実施されるなど、学習方法や環境に改善が見られた。今後は、さらに学力を向上させるための、新しい授業方法や課題の与え方についての研究・改善が求められる。 **生徒指導面** 基本的な生活習慣が身に付いており、あいさつについて外部からの評価が高い。自ら考え、行動する自主自律の気持ちが課題である。今後は、服装・頭髪指導等における共通理解を深めることが課題となっている。 **進路指導面** 進路ガイダンス、キャリア教育等の取り組みや、継続的な進路指導の結果、今年度も希望者全員の就職が内定した。進学においても、一般入試での合格者を出すなど、実力でチャレンジできる生徒が徐々に増えてきている。今後は、個別の特性に合わせた指導で、生徒の学習意欲をさらに向上させ、対外競争力を高めることが課題である。 **特別活動面** 生徒の部活動加入率が徐々に減ってきている。運動部、文化部ともに各大会で健闘し、優秀な成績を収めることができた。今後とも継続して活動できるよう支援したい。また、文化祭等の学校行事が実施できた一方、他の行事等が同時期に重なり、準備等の時間確保が難しかった。 **広報活動及びＰＴＡ活動面** 学年だより等を定期的に発行し、ＨＰ等でも情報を配信できた。今年度も中止を余儀なくされた行事があった一方で、文化祭が実施できたことは大きな成果と考えている。	【学習指導の充実・強化】 一人一人の自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	①学力の向上のため、課題等を与えることで、家庭学習の習慣化を図る。 ②各種資格試験の受験者・合格者を増加させる。	4
	【授業改善】 授業改善に積極的に取組む。	③授業に対して肯定的に評価している生徒の割合を60％以上とする。	4
	【生徒指導の充実・強化】 基本的な生活習慣を身に付けさせ、生徒の自立及び自律を図る。	④学校の教育活動全体を通して、基本的な生活習慣や規範意識を醸成する。 ⑤全教職員共通認識のもと、計画性のある校内生徒指導の定期的実施により、自己生徒指導力を育成する。 ⑥外部講師による各種防止講話等を通じて、生徒の事故防止に努める。 ⑦家庭との緊密な連携により、問題行動やいじめ等の早期発見に努める。	4
	【進路指導の充実】 体系的な進路指導を推進し、早期に進路目標を持たせ、生徒全員の進路実現を目指す。	⑧職業選択や自己実現のために企業実習やガイダンス等を通して、望ましい職業観や勤労観を養い、主体的に進路選択ができるようにする。 ⑨生徒との面談や保護者との緊密な連携により、効果的な進路指導ができるようにする。 ⑩将来に生きる実技系資格取得を奨励し、進路意識を醸成する。	4
	【健康安全指導の充実】 体育や部活動等のあらゆる機会を捉えて、心身ともに健康で情緒豊かな生徒の育成を図る。	⑪生徒に応じた指導体制の確立と、指導計画の工夫により、生徒が関心をもつ部活動を実践する。 ⑫ボランティアや奉仕活動などの社会体験活動を積極的に推進する。 ⑬健康安全についての意識を高め、事故の未然防止に努める。	4
	【その他活動の充実】 地域との連携を強化するとともに、広報活動やＰＴＡ活動を通じて本校の魅力を積極的に発信する。 働き方改革を推進し、職員のゆとり・健康の向上を図る。 互いを思いやり助け合える強いチームを目指す。	⑭「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、地域との連携を強化する。 ⑮「ホームページ」、「学校便り」等を充実させ、最新情報を積極的に発信する。 ⑯保護者からの理解・協力を促進するため、教職員のＰＴＡ会合や行事へ積極的な参加を図り、ＰＴＡ相互の交流を深める。 ⑰働き方改革を推進し、職員の自己研鑽時間を確保する。 ⑱互いを思いやり助け合える強いチームを目指す。	4

※達成状況　：　５（十分達成：100～80%）、４（概ね達成：79～60%）、３（あまり達成していない：59～40%）、２（達成がやや不十分：39～20%）、１（達成が極めて不十分：19～0%）

三つの方針		具体的目標
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） 心身ともに健やかな社会人としての資質、素養を兼ね備え、地域を愛し、地域に貢献できる人材（人財）の育成
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） 生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育課程による、就職から大学進学までの進路希望実現
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） 入学の段階から高い目的意識を持ち、自己の進路実現を目指し、日々努力する生徒

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国　語	学習習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。	・週末課題や月曜課題を実施し、家庭学習の習慣化を図る。	4	4	・ＩＣＴ機器を活用した学習法の研修や共有。 ・図書館の活用など本に触れる機会を増やす。 ・生徒のスキルアップを支援。（漢字検定の受験者数合格者数を増やす）
		・週１回以上漢字テスト等を実施し、学習内容の定着と語彙力の向上に取り組ませる。	4		
	読解力、表現力を養う。	・丁寧に文章を読ませ、内容を論理的に読み取る力をのばすなど、読解力の充実を図るとともに、全ての学習活動の基盤となる思考力・判断力を伸長させる授業を展開する。	4		
		・表現教材の積極的な利用をとおして、自分の考えを論理的に整理し、的確に表現できる能力を育成する。	4		
	主体的に学習する姿勢を養う。	・授業中や各種課題に辞書やＩＣＴ機器を使って調べる機会を設け、分からない事項などについて自ら調べる姿勢を養う。	4		
		・読書感想文や読書レポート課題などを年１回以上課し、本に接する機会を増やす。	4		
		・能動的な学習を促すことのできる指導法や、言語活動を取り入れた授業について科内の研修を行い、授業の質的向上を図る。	4		
地　歴 公　民	基礎学力向上・問題発見能力・解決する力を身につけさせる。	・基礎的な事象をしっかりと学び、その中から問題点を発見し、解決方法を自ら考え、見つけ出していく学習習慣を養う。	5		・新科目「日本史探究」及び「政治経済」の授業研究。 ・ICT機器や視聴覚教材を効果的に活用した授業の開発。
		・資料を読み解き、考察・検討する態度を身につけさせる。	4		
	教科指導力の向上・質の高い授業の実践。 授業に対して肯定的に評価している生徒の割合60%以上。	・ICT機器の活用や視覚・聴覚等多方面からのアプローチにより、判断力や理解力の向上を目指す。	5		
		・生徒主体の活発な授業展開を研究し実践して、社会科学についての関心や意欲を高める。	4		
		・学力向上のための研修、相互参観授業の研修を年３回行う。	4		
	現代人としての資質を養う。	・現代社会との接点を見つけられるような授業を展開し、多くの社会事象を理解することにより自分の考えや意見を確立させる。（時事問題研究）	4		
数　学	基礎学力の向上と学習習慣の確立を図る。	・この特性に応じた適切な学習支援を行う。 ・４技能それぞれの特性を把握し、学力の伸長を図る。	4	4	・ICTを利用した指導の工夫改善をする。 ・実用数学検定の受検者数を増やす。 ・成績不振者を減らす。
	教科指導力の向上を図る。	・週１回程度補講を行い、適切な学習支援を行う。 ・生徒主体の活発な授業展開を研究し、関心や意欲を高める。	4		
	数学検定の受験者・合格者を増加させる。	・数検対策課外を実施するとともに、進学課外等を通し受験を促す。	4		
理　科	基礎学力の向上と学習習慣の確立を図る。	・ノートのメモ欄作成と振り返りシートの毎回授業での記入を徹底し、基礎学力の向上に努める。	4	4	・教室や実験室でのICTの利用 ・成績不振者への補講進学者への課外
		・副教材や自作教材、ICT を活用した課題を与え、その提出を徹底させることで生徒の家庭学習の習慣化を促す。各科目課題の提出率 90%を目指す。	4		
	生徒一人一人に対するきめ細やかな指導を行う。	・生徒一人一人の興味、関心を引き出せるように、観察や実験の授業を月２回以上行う。	3		
		・ICT機器等を利用して、実験動画を見せるなど生徒の理科への興味関心を引きだす授業を展開する。	4		
		・観点別評価に基づいた指導を行い、指導方法の工夫・改善に努める。	4		
		・授業改善の一環として、生徒の主体性を高める授業について、相互授業参観を年６回以上実施し、自己研鑽および授業力の向上に努める。	3		
	安全管理と事故防止に努める。	・予備実験・事前調査を必ず行い、観察・実験の安全性を確保する。長期休暇中には 10 回以上の実験を行い、理解を深める。	4		
		・毎月の教員による清掃で理科実験室の整理整頓を徹底し、安全で実験しやすい環境を整備する。	4		
		・毒物劇物等の薬品の適正な管理と、廃液、廃棄物の適正な処理を行う。	4		

※評価基準 ： ５（十分達成：100～80%）、４（概ね達成：79～60%）、３（あまり達成していない：59～40%）、２（達成がやや不十分：39～20%）、１（達成が極めて不十分：19～0%）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
保健体育	集団行動の徹底した指導を図る。	・集団行動を徹底することで、協力し責任ある行動をとる態度を培い、落ち着いた生活を送れるよう基本的生活習慣の定着に繋げる。さらに安全で安心した学校生活への理解を深める。	4	4	・体力テストのD･E級の割合10パーセント以下を目指す。 ・生涯スポーツにつなげるための授業研究。
	基礎体力の向上に努める。	・体力テストなどを通じて自己の体力について理解させ、意欲的に体力を高めようとする習慣を育む。授業内で体力の向上に努めさせ、運動部の成績向上にも繋げられるように連携を図っていく。体力テストのＥ級の割合を０パーセントにする。	4		
	運動やスポーツの楽しさや喜び、達成感を経験させる。	・様々なスポーツを経験させ、それらについての基礎基本と安全についての理解を図る。また、グループ編成を工夫し、各自の目的に応じた指導を行うことで、運動の楽しさや集団で協力する喜び、技能修得の達成感を経験させることで、生涯スポーツに繋げる。	4		
	保健分野に関する学習への興味・関心を深める。	・教材や資料の活用方法を工夫し、理解しやすい授業を展開する。また、健康や安全、性教育等の保健分野への興味・関心を深め、正しい知識を身に付けさせる。また、積極的にグループワークを導入し自ら課題に対する答えを導き出す力を養成する。	4		
芸　術	芸術の幅広い活動に触れさせる。	・中学校での学習を踏まえながら、基礎・基本の70％以上の定着を図る。	4	4	・AIの時代に備え、なぜ人間がやらなければならないのか、感性を高めることの重要性を伝授する ・芸術の諸能力をさらに伸ばし、芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。
		・各分野の歴史に多く触れさせる事で鑑賞を年３回以上実施し、基本的能力を高めさせ、芸術的感性の深化を図る。	4		
		・家庭でも芸術に触れる機会がたくさん存在することを理解させ、芸術に対する幅広い視野を持たせる。	4		
	言語活動を取り入れ、表現意欲を育成させる。 教科指導力の向上・質の高い授業の実践に取り組む。	・生徒の興味関心を引き出す教材を精選し、生徒が心から芸術を楽しむことができる授業を展開する。	4		
		・個性を重視した表現、技術、能力を生徒の段階に応じて育成する。	4		
		・授業に対して肯定的に評価している生徒の割合６０％以上を目指す。			
	創作、鑑賞能力を伸ばす。	・生徒の発表会及び展示会を年間３回以上実施し、互いに切磋琢磨し合い、鑑賞能力を育成できるようにする。	4		
		・視聴覚教材等を利用し、授業の展開を図り、授業への積極的な参加を促す。	4		
外国語	基礎学力の向上、応用できる学習態度を育成する。	・個の特性に応じた指導を実践する。定期考査と外部試験を通して生徒個々の４技能それぞれの特性を把握し、得意分野の伸長を図る。	4	4	・生徒が自分の気持ちを自分の言葉で伝えられるような言語活動の研究。 ・英検合格者数の増加。
	コミュニケーション能力の育成と定着を図る。	・自分の気持ちや意見をより多くのことばで伝えることのできるコミュニケーション能力を育成する。	4		
		・ＡＬＴとのティームティーチングと交流を計画的に実施し、英語ベースでのコミュニケーションに習熟できる環境を整備する。	5		
	英検とGTECへの取り組みの強化を図る。	・英検受験を積極的に勧め、GTEC 対策等を利用してボキャブラリーとリスニングを強化する。英検では３級合格者数を７割、準２級合格者数を５割、２級合格者数を３割以上出す。	3		
家　庭	被服における基礎的知識、技能の定着を図る。	・エプロンを作成することで、使用するミシン、その他、裁縫用具の名称・使用法を学ぶことにより、被服の基礎的知識と技能を身につけさせ、日常生活において実践できるように促す。	4	5	・生活に必要な基礎的な知識と技術の定着とより丁寧な指導を行う。 ・ICTを活用し、わかりやすい説明に努める。
	食物における基礎的知識、実践的態度等の能力を育てる。	・調理実習を年に数回実施することにより、食品や調理の基礎的知識や技能を定着させ実生活に生かせるように指導する。	5		
		・グループで調理実習を実施することにより、お互いに協力して作業することの大切さを自覚するよう指導する。	5		
	学習環境の整備に努め安全に留意する。	・施設設備の安全と衛生管理を習慣化できるよう指導し、自ら事故防止に努めさせるよう配慮する。	5		
		・年５回以上 AV 資料を使用し、生徒が理解しやすい授業を展開できるように努める。	4		

※評価基準 ： ５(十分達成：100～80%)、４(概ね達成：79～60%)、３(あまり達成していない：59～40%)、２(達成がやや不十分：39～20%)、１(達成が極めて不十分：19～0%)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
情　報	情報活用の実践力を養う。	・各種ソフト(Word、Excel、Powerpoint)の特性を理解させ、効率的に使用できる能力を身につけさせる。	4	4	・ICT機器活用の工夫
		・各自の目標設定を明確にし、進捗度を確認させる。	4		
		・データ収集から解決方法を導き、ＩＣＴを活用した問題解決方法を身に付けさせる。	4		
		・資格取得の重要さを説き、効率的に検定受験ができるようカリキュラムの効率化を図る。	4		
		・プログラミングの基本と実践方法を身につけさせる。	4		
	情報の科学的な理解を深める。	・情報化に伴う、モラルの大切さ、法規遵守の重要性を理解させる。	4		
		・情報社会の根底の対人関係の大切さを理解させ、コミュニケーション能力を身につけさせる。	4		
		・情報化のメリット、デメリットを十分に理解させる。	4		
	情報社会に参画する態度を育てる。	・プレゼン用のソフトウェアを利用し、プレゼン練習とグループ学習の授業形態を確立させることで職業観を育成する。	4		
工　業 機 械	社会人としての自覚や望ましい職業観・勤労観を育む。	・機械実習等の実技科目を通して、工業技術の諸問題を解決させる技術、技能を育む。	4	4	・実習内容の見直し ・ICT機器活用の工夫 ・Wi－Fi環境の整備 ・各教室へのモニター設置
		・企業実習（夏季休業中）を実施し、より実践的な知識や技術、技能を身につけさせ、地域や産業界との連携を図り、職業観・勤労観を育成する。	3		
	個性を生かす指導法を工夫する。	・基礎的、基本的な知識や技術、技能の育成を考慮した指導を行うとともに、技術革新の進展に応じた指導を取り入れる。	4		
		・ものづくり教育を通して、生徒が自ら学び自ら考える力を育む。	4		
		・将来に生きる実技系資格など進路に沿った資格取得奨励を図り、主体的な進路選択や自己実現の育成を促す指導を行う。	4		
	指導に生かす評価の改善をする。	・ICT機器を活用して、興味関心を引き出し分り易い授業展開に努める。	4		
		・観点別評価を通して、その評価にもとづき指導方法の改善や工夫を行う。	4		
		・科目間の関連を踏まえ、座学および実習内容の連携を図った指導計画を作成する。	4		
		・授業に対して肯定的に評価している生徒の割合60％以上を目指す。	4		
	学習環境の整備と事故防止教育に努める。	・適切な評価規準と多面的な学習状況把握を行い、実習におけるレポートの提出率９０％および座学におけるノート提出等の課題提出率９０％を目指す。	5		
		・教育効果が最大限に得られるよう、機械実習室の整理、整頓等を行い、適切な管理をする。	5		
		・実験･実習における施設および設備の安全と衛生管理に配慮し、事故発生件数が０件となる事故防止指導を徹底する。	5		
工　業 工業化学 ・情報	一人一人に合った職業観と勤労観を育む。	・実技実習を通して、工業技術の諸問題を解決させる技術、技能を育む。	4	4	・実習、練習プリントの充実 ・ICT機器活用の工夫 ・器具・機器の整理整頓 ・Wi－Fi環境の整備 ・各教室へのモニター設置
		・企業実習を推進し、より実践的な知識や技術・技能を身につけさせ、地域や産業界との連携を図り、職業観を育む。	4		
		・基礎的、基本的な知識や技術、技能の育成を考慮した指導を行うとともに、技術革新の進展に応じた指導を取り入れる。また、進学を志す生徒にも対応した教育課程の実現を目指す。	4		
	個性を生かす指導方法を工夫する。	・社会性や規範意識を醸成させる工夫をし、主体的に問題解決に努め創造性を促す指導を行う。	4		
		・チームでの活動の大切さとコミュニケーション能力の向上を図る。	4		
		・進路に沿った資格、試験の取得奨励を図り、主体的な進路選択や自己実現を促す指導を行う。工業化学・情報科の生徒に１つ以上の資格を取得することを促す指導を行う。	4		
		・観点別評価を通して、その評価にもとづき指導方法の改善や工夫を行う。	4		
	指導に生かす評価の改善をする。	・適切な評価規準と多面的な学習状況把握を行い、実習におけるレポートの提出率100％や座学におけるノート提出等の課題提出率90％を目指す。	5		
		・ICT機器を活用し、通信ネットワークの利用と情報モラルの指導を行う。	4		
		・授業に対して肯定的に評価している生徒の割合60％以上を目指す。	5		
	学習環境の整備と事故防止教育に努める。	・実験、実習において、十分な学習活動ができるように機器等の定期的な点検を実施し、施設および設備の安全と衛生管理に配慮し、事故発生件数が０件となる事故防止指導を徹底する。	5		

※評価基準 ： ５(十分達成：100～80%)、４(概ね達成：79～60%)、３(あまり達成していない：59～40%)、２(達成がやや不十分：39～20%)、１(達成が極めて不十分：19～0%)

価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
工　業 電 気	地域の実態に応じた指導を行い基本的な学習活動の確立に努める。	・教材研究を行い、わかりやすい授業を展開し、知識の定着に努める。	4	4	・基礎学力の強化 ・ICT活用の工夫 ・Wi－Fi環境の整備
		・ICTを効果的に活用し、生徒の興味関心を高める。	4		
		・各科目で単元ごとに小テストを行い、生徒の習熟度や実態の把握に努める。	3		
	電気を体系的に捉え、教科間が連携した授業づくりを行う。	・電気事象と電気理論の関係について理解を深めるため、座学と実習の連携を図る。	4		
		・基本的な知識・技能の習得が図れるように、実習の指導体制や座学の指導内容の見直しを図る。	5		
		・第二種電気工事士の取得指導を通し、電気に関する知識・技能の習得のための指導体制の充実を図る。	5		
	工業人としての安全管理意識や社会性を育む。	・実習や課題研究を通して、５Sを意識した行動ができるように指導する。	5		
		・協働学習を通して、意見の異なる他者と相互理解しようとする意識と敬う心を育てる。	4		
教　務	授業力の向上を図り、授業に対して肯定的に評価している生徒の割合60%以上を目指す。	・ICT機器を活用した学習、ＡＬ型授業、個に応じた課題等の工夫した授業を各教科で実践してもらう。	4	4	・授業力の向上を図り、授業に対する授業満足度を学校全体で3.5以上を目指す。 ・波メールや学校ホームページの活用。 ・各教科で作成した教材を共有することで作成作業の時間短縮と、教科横断的な学習に活用する。 ・ストレージやG-Drive、classroomの使い分けをする。
		・各教科の授業参観を年２回以上計画実施する。	4		
		・生徒による授業評価の結果を授業改善に活用する。	4		
	教職員間の連携により、円滑で積極的な教育活動を実現する。	・授業の初期指導の徹底を図り、思考力・判断力・表現力を育てる指導を行う。	4		
		・ICT関係の教員研修を重ね、早期に共有データを一元化し、より多くの教職員が活用していくことができる環境整備を進める。	4		
	他分掌との連携を図り、最新の情報の広報を目指す。	・学年、各分掌と連携し、波メールやHPなどを活用して、学校行事等の情報や配布文書、部活動等の情報を随時提供する。	4		
	業務の時間短縮を図り、働き方改革を進める。	・分掌間の業務共有化を進め、共有できるデータを共有フォルダで一元化し、インデックスを作成、更新することで閲覧、作成作業をスムーズにする。	4		
	図書資料(書籍・教育用DVDなど)の整備と充実を図る。図書委員会の充実と活性化	・図書館利用の便宜を図るとともに、図書購入希望アンケートにより希望図書を募ることで、学校図書館として利用者の幅広いニーズに答えられる図書資料の購入を行う。 ・定期的に図書館便りの制作・発行、および図書館での貸出・返却業務、書棚整理などを行う。	4		
	放送業務など視聴覚活動の活性化および視聴覚機器の充実と活用を図る。	・機器の保守点検を継続的に行い、機器が常に正常に動作するよう努める。また、修理・交換を速やかに行うよう努める。 ・集会や式典において、放送担当としての役割を全うする。 ・生徒放送委員による昼休みや学校行事等における放送(視聴覚)活動を支援する。	4		
特別活動	生徒会活動の活性化と学校行事の充実を図る。	・生徒会活動やHR活動の中で生徒の意思が反映され、創造力や行動力を伸ばすことができるよう支援する。	4	4	・年間計画に合った行事が実施できない状況であった。 ・文化祭の準備、実施時期に修学旅行、中間考査、60周年式典、芸術鑑賞会が重なっているため満足のいく行事が実施できるか心配
		・学校行事を通して、集団への所属意識や連帯感を深めさせる。	4		
		・学校行事の企画、運営が組織的かつ合理的に行われるよう、組織づくりおよび協力体制づくりを推進する。	4		
	部活動の奨励と学校生活の充実を図る。	・１年生の部活動への加入を奨励し、全校生徒の部活動加入率８０%以上を維持する。	5		
		・部活動を通して、異学年との交流を深め学校生活の充実を図る。	4		
	積極的な広報活動及びボランティア活動を行う。	・学校行事・生徒会活動・ホームルーム活動および部活動等の様子を月１回以上ホームページで紹介し、本校の学校生活の魅力を地域に発信する。	3		
		・生徒会誌を年1回発行し、生徒同士の情報交換や、外部への広報活動に役立てる。	3		
		・地元自治体と連携したボランティア活動を行う。	4		
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	・挨拶・身だしなみ・スマホ利用・公共マナーの指導を徹底し、社会に通用する規範意識を身につける。	5	5	どのような支援・指導が効果的かを判断し、その状況を職員間で共有して効果的な支援・指導につなげられるような状態をつくりたい。
		・社会の一員であることを自覚させ、社会に貢献できる生徒の育成に全職員で努める。(マナーアップ運動・学校週番制度)	4		
		・家庭との連携を密にし、生徒・保護者・教員の相互理解に基づき、いじめの早期発見と適切な指導を行う。	4		
	生活・交通安全教育の推進を図る。	・生徒心得に準じ、生徒・教員・保護者とともに校則について見直や点検を行い、問題行動の未然防止を図る。	4		
		・登校指導や交通安全キャンペーン、自転車点検を年間２度実施し、事故防止に努める。	5		
		・外部講師による講話を年間２度実施し、事故やSNSによるトラブル等からの犯罪防止に努め「命の大切さ」を学ぶ教育に努める。	5		

※評価基準 ： 5(十分達成：100～80%)、4(概ね達成：79～60%)、3(あまり達成していない：59～40%)、2(達成がやや不十分：39～20%)、1(達成が極めて不十分：19～0%)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路指導	積極的なキャリア教育を実践し、将来にわたるビジョンをもたせるとともに、生きる力を身につけさせる。地域に貢献しうる人材育成を目指す。	・将来の自分像を社会の中に適切に位置づけるための参考となるよう、地域・企業と連携したプログラムを企画し、実施する。	4	4	・模試のデータの分析効果的な活用 ・生徒への面接指導の呼びかけ ・進学者の増加に伴う情報の提供 ・模試受験者数の増加 ・企業と連携したプログラムの工夫 ・就職・進学の情報の共有
		・進学者の第一志望合格率 90%、就職者初回応募内定率 90%以上になるよう、時機にかなった進路情報の提供と個に応じた面接指導や学習指導をする。最終的に進路決定 100%を目指す。	4		
		・進路指導プログラムおよび授業、行事等が思考力・判断力・表現力を育てる場となるための改革を推進するとともに、教員の研修・研究のための情報分析・意見交換の場を設ける。	4		
	主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせ、学校全体としての学力の向上を図るとともに、進学実績を質的・量的に向上させる。	・実力（基礎力）診断テストアンケートの「学習意欲」において「やや高い」「高い」と答える生徒が 60%以上となることを目指し、授業実践の改善や、朝学習、課外授業等の運営を支援する。 ・各学年で学習合宿等を企画し、受験に向けて応用力を養い、大学受験に対応できる実践力をつけさせる。	4		
		・対外競争力を意識しながら生徒自らが学力の向上に努めることができるよう、外部の学力テストや模擬試験のデータを有効活用する。 ・複数名の国公立大学合格者を出す。	4		
		・生徒の進路選択の幅を広げることができるよう、大学や入試に関する有効な情報を的確に、いち早く発信する。また、情報発信の方法を工夫して円滑に伝わるようにする。	4		
保健厚生	生涯にわたり、健康な生活が送れるよう生徒自らが興味を持って取り組める健康教育の育成を目指す。	・感染症を予防し、毎日の健康観察を重視するとともに、基本的生活習慣の確立を徹底する。	4	4	・がん教育、性教育については、教科（保健）の授業で実施しクラス毎の学習している。 ・AED（救命）講習については、来年度は職員対象に計画したい。 ・感染症については今後も継続的な予防が必要である。出席停止措置については、明確にする必要がある。
		・がん教育を取り入れ、がんについての正しい知識を身につけ、がん患者や家族などに対する共感的理解を深める。	3		
		・各種講話（性教育、薬物乱用防止教育講話等）を実施し、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る。	4		
		・保健だよりを配付し、学校保健啓発活動の充実を図る。	5		
	校舎内外の環境整備に努め、生命尊重を基とした安全対処能力の育成を図る。	・安全点検をとおし、環境整備を心がけ、事故の未然防止に努める。また、校舎内外の巡回を行い、早期に危険箇所の発見に努める。	4		
		・ＡＥＤを用いた救急救命講習を受講できるように計画する。（希望教職員対象）	3		
		・避難訓練を行い、生徒が事故災害発生時に生命尊重を基とした適切な行動がとれるよう指導する。また、避難訓練等の反省を踏まえ、危機管理マニュアル（大雨・竜巻・Ｊアラートなど）の見直しを行う。	4		
	多様な生徒、特別な配慮、支援を必要とする生徒を理解するとともに、チーム支援を軸とした組織的な関わりを目指す。	・定期的に特別支援校内委員会を開催し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関との連携を深める。	4		
		・自傷行為や自殺を考える生徒を理解し、問題の早期発見、早期対応に努め、医療機関等との連携を図る。	4		
		・福祉的な支援を必要とする家庭の生徒を理解するとともに、市や児童相談所との連携を図る。	4		
		・中学校から引き継いだ個別の支援計画をもとに、個に寄り添った支援を行い、合理的配慮に努める。	4		
		・円滑な業務遂行のため、ＩＣＴなどを活用し、業務の見直しを検討する。	3		
	心にゆとりある職務ができるよう、業務改善と働き方改革の実現を目指す。	・定期的に部会議を開催し、各行事ごとの反省や情報交換をおこない、部内の共通理解を図る。	3		
		・衛生委員会を通して、職場環境の向上を図るとともに、働き方改革、勤務時間の短縮を検討し、職員の健康を考える。	3		
渉　外	地域との連携を密にし、地域に根差した学校運営に寄与する。	・ＰＴＡ運営委員会を通じてコロナ前の業務再開に応じた見直しをし、新たなＰＴＡ活動の形を検討する。	5	4	・新規本部役員の選出方法の検討。 ・社会情勢に適した新たな活動の確立。
		・学校の教育活動を理解し、協力してもらうための広報紙「まつかぜ」等の工夫。	4		
		・学校の教育活動を理解し、協力・参加ができたと認識できる保護者の数を増やす。	3		

※評価基準 ： ５(十分達成：100～80%)、４(概ね達成：79～60%)、３(あまり達成していない：59～40%)、２(達成がやや不十分：39～20%)、１(達成が極めて不十分：19～0%)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
第1学年	学習習慣の定着を図る。	・授業を大切にするとともに、家庭学習の習慣化を図り、基礎学力の充実を目指す。	4	4	・進学率向上のため課外授業を効率的に進め、模試受験者を増加さえる。
		・定期考査や資格試験に向けた計画的学習の推進に努め、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。	4		
		・資格取得や進学に向けた課外授業を行い、進路希望に応じた学力の定着を図る。	4		
	基本的生活習慣の確立・規範意識の向上を図る	・高校生らしい服装、挨拶、言葉遣いの指導徹底を図る。	4		
		・時間を遵守し、余裕のある落ち着いた生活習慣を身に付けさせる。	4		
		・環境美化を徹底し、公共の場における過ごし方を身に付けさせる。	4		
		・部活動への積極的加入・参加し、部活動を通して人間関係の構築を図る。	4		
	人権尊重の精神に基づく人間関係の構築を図る。	・ホームルームや学校行事を利用して、自他の尊重に基づくクラス経営に努める。	4		
		・学校生活を通して、豊かな人間性の育成を図る。	4		
	生徒理解及び家庭との連携の重視、教員の多様な働き方を是正する。	・家庭との連携を密にし、問題行動やいじめの早期発見・未然防止に努める。	4		
		・特に支援や配慮が必要な生徒について、教員間で情報共有し、共通理解を図る。	4		
		・職員の業務分担を公平かつ適正に振り分け生産性・効率化の向上を目指し、長時間化する労働時間の是正に努める。	4		
第2学年	主体的な学習態度を身に着けさせる。 基礎学力の向上、学習習慣を確立させる。	・スタディサポートテスト・模擬試験等を実施し、自己の学力と課題を自覚させ、学習意欲を喚起する。	4	4	・大学進学者の明確化 ・時間を意識した行動 ・問題行動の未然防止 ・教員の意識及び行動力向上
		・引き続き朝学習・授業を大切にする中で、主体的に臨む態度を養い、基礎学力の定着を図る。	4		
		・進学や資格取得に向けた課外授業を充実させ、進路希望に応じた学力の定着を図る。	4		
		・定期考査や資格取得に向けた計画的学習の推進に努め、自ら課題に取り組む姿勢を身に着けさせる。	4		
	基本的な生活習慣を維持し、社会的ルールや道徳的習慣を尊重する態度を育てる。	・場面に応じた服装、あいさつ、言葉遣いの指導徹底を図る。	4		
		・時間を守り、計画的で余裕のある生活習慣及び公共の場での過ごし方を身に付けさせる。	4		
		・部活動や学校行事に主体的に参加させ、理想的な人間関係の構築と自己理解を促す。（いじめゼロ） ・学年職員が連携し、生徒一人ひとりに手を掛けて、問題行動の未然防止に努める。	3		
	進路実現に向けた適切な職業観や知識を身に着けさせる。	・進路関係行事を実施し、様々な分野への興味を広げさせるとともに、自分に必要な知識や学力の向上に取り組ませる。	4		
		・生徒や保護者との面談を通して、生徒に対する理解を深め、適切な進路指導を行う。	4		
		・修学旅行などの学校行事を通じて社会の見聞を広げさせるとともに、自らの在り方をより深く考えさせる。また、主体的な活動や協調性を身に付けさせる。	5		
第3学年	生徒個々の能力と目標に応じた学力の定着を図る。	・自らの課題に真剣に取り組むことを通して、今後の進路に見合う学力を身につけさせる。	4	4	・進学希望者へのより広いサポート（模試の分析や指導など） ・進路決定後の学習指導や生活指導
		・生徒個々の特質を考慮した授業展開及び環境づくりを推進し、集中力の向上と理解の深化を図る。	4		
		・進学課外の充実、入試形態に応じた個別指導等を通して、希望する進路実現の主体的な学習への取り組みを支援する。	4		
	社会規範や法令を守ることの意義を理解し、新成人として社会で適応する人材を育成する。	・生徒それぞれの発達段階に応じて、社会規範や道徳を自覚した自律的生活への移行を促す。	4		
		・授業や集会等にスムーズに臨めるよう、時間を守る態度についての指導を進める。	4		
		・手帳を利用してメモをとらせる指導を行い、聞く態度や情報の管理など、社会人となってから役に立つ習慣を身につけさせる。	4		
	生徒全員の進路実現が達成できるよう支援する。	・生徒との面談、保護者との連携や三者面談を通して、生徒に対する理解を深め、進路実現に助力する。	5		
		・大学・専門学校・企業等の情報を、各生徒に適切に伝達し、進路決定に役立つよう進路指導を進める。	4		
		・面接指導や作文・小論文指導など入学試験や入社試験に対応するための指導を進路指導部と協力して効率的に行う。	5		
		・進学希望者には模擬試験を積極的に受験させ、入試に対応できる実践力を養う。	4		
事　務	経費削減による施設・設備の充実化	・ペーパーレス化による用紙、光熱水費（電気・水道）等の削減及び物品の購入時には集中発注による応札率の向上を図り、学校運営費予算の削減をし、その削減分で老朽化した施設・設備の修繕等を充実させる。	4	4	・授業への影響に配慮しつつ、複数者の応札により予算の削減を削減し学校設備等の充実を図る
	校内施設の適正な管理と安全確保	・学校内の施設設備等について、危険個所・修繕箇所の早期把握と速やかな改善により安全管理を図る。	5		

※評価基準 ： 5（十分達成：100～80%）、4（概ね達成：79～60%）、3（あまり達成していない：59～40%）、2（達成がやや不十分：39～20%）、1（達成が極めて不十分：19～0%）